

活動報告 英語ディベート研修 in 韓国梨花女子大

北田瑞希

ESS ディベートセクション所属
21世紀プログラム (1回生)

【概要】

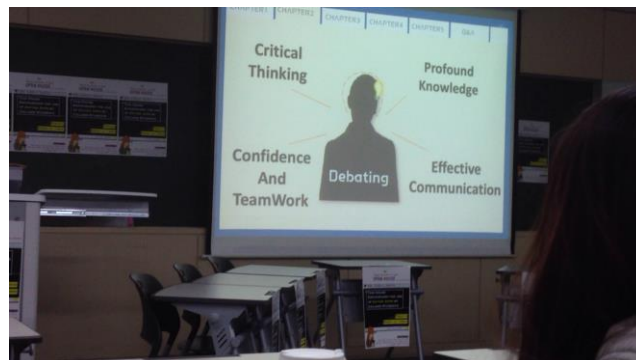
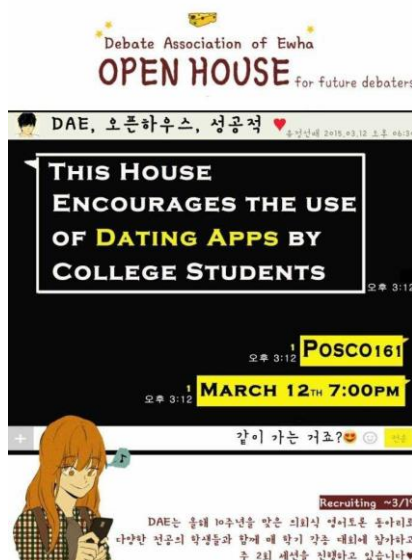
日程：3月12日(木)～15日(日)

場所：韓国梨花女子大

【活動内容】

梨花女子大の新入生向け新歓ガイダンス「Open House」への参加

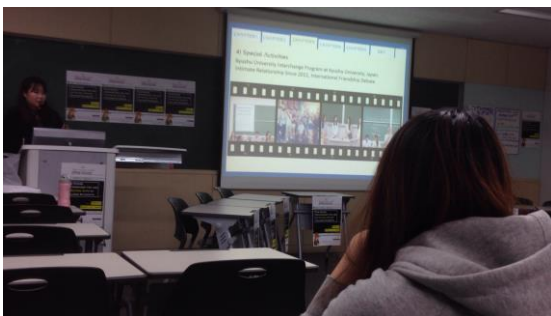
九州大学 ESS パーラメンタリーディベートセクションから6名が参加した。Open House は、新入生にそもそもディベートとはどういうもので、ディベート部がどのような活動をしてきて、今年度はこんな活動をする予定だ、といった内容を紹介するための場である。その Open House にゲストとして参加してきた。部内の歴史や戦績・ルールが細かく新入生にもわかりやすく説明されていた。また、梨花女子大のディベート部は1か月以上前から粛々と準備を進めていたらしく、スライドのクオリティも説明のクオリティもポスターのクオリティもとても高かった。



「Open House」におけるモデルディベートにディベーターとしての参加

私たちのメンバーの一人である南くんが Open House でモデルディベートに参加した。モーションはあらかじめ提示されており、“THIS HOUSE ENCOURAGES THE USE OF

DATING APPS BY COLLEGE STUDENTS” という新入生が親しみやすいラブモーショ
ンであった。大学生のデーティングアプリの使用を推奨するというものである。南くんは
韓国に行く以前より、梨花女子大のメンバーと Skype 等を通してスタンスやアーギュメン
トについて話し合っていた。本番では、ナンバリングが綺麗になされていたり、スピーチ
の終わりにこんなことを話しましたと一言でまとめたり、個人的体験を例に使ったり、新
入生に分かりやすく伝える工夫がなされていた。そもそもの英語力が高いのはもちろんの
こと、refute も assumption から丁寧にされており、内容がとても濃かった。



梨花女子大の普段の練習に混ざって一緒にディベートの練習

まず、Peter Kipp 先生から社会契約論についてのレクチャーを受けた。レクチャーはディ
スカッション形式ですべて英語で、ロジカルに自分の考えを述べることが求められた。
レクチャー後、Kipp 先生を入れてのディベートの練習が行われた。モーションは、
“THBT politicians with unpopular views should lie about their views in order to be
elected.” であった。ラウンド後は Kipp 先生がアーギュメントや一人一人のスピーチにコ
メントをくださり、勉強になった。

梨花女子大の見学

梨花女子大のキャンパス内を見て回る機会を得たため、カフェテリアやスポーツジム、自習
室などの共同施設を見て回った。スポーツジムでは大量のランニングマシンが全て埋ま
っていたり、自習室も空きが無かったり、通りがかる学生の多くは片手に韓国語ではない言
語の本を持っていたり、ディベートに関係無く、梨花女子大の学生は自分の将来や学問、今
打ち込んでいるものに真摯に向き合っているのだと感じた。私たちがディベートはもちろ
ん、ディベート以外の勉強等にも力をもっと注ごうと思った。

【これからの展望】

新歓ガイダンスについて

例年、九州大学 ESS ディベートセクションはモデルディベートで古典モーションと言われるものをやってきた。26 年度のモデルディベートのモーションは“THW legalize child labor.”であった。先輩方の本気のディベートに圧倒された私たち新入生の中には全く英語が聞き取れず、英語ディベートに高い壁を感じ、練習に来なくなってしまった人もいた。今回の研修で学んだように新入生向けのモデルディベートは楽しんでもらうこと。27 年度のモデルディベートはその点に配慮した、新入生がリラックスして聴けるモデルディベートを目指す。

普段の練習について

私たち九州大学 ESS から見た梨花女子大の羨ましい点は、部員全体・部のディベート全体を見回して「今足りていないのはどういう点か」を正しく見極め、即座にさっとレクチャーを行える環境である。4 年生や院 2 年生が卒業した今、それが出来る人はいない。しかし、「今足りていない点」を見極めることさえできればレクチャーという形をとらなくとも、調べてきた内容について紹介してディスカッションを行い、アイデアや情報を交換し、共有することはできる。これからの活動の中でそういったことをしていこうと考える。

今回の研修を通して、ディベートに関して、そしてディベート以外のことに関して強いインセンティブをもらった。また梨花女子大の学生らのディベート時とそれ以外のメリハリがあり、私たちもメリハリをしっかりと練習していかなければならないと感じた。今回学んだことをこれからの活動に活かしていきたい。